

ワークショップ 5月25日(水) (ふらっと月ヶ瀬)

テーマ	意見
建設 防災 環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ふらっと月ヶ瀬対面の急傾斜地や各地域で土砂崩れの危険個所が多くみられるが、その対策は ・ふらっと月ヶ瀬施設東側の道路が、北側に向かいその先で遮断されているが、防災上また、病院患者の避難誘導路等考え、慶友病院へ繋げてほしい ・月ヶ瀬学区の避難場所は、旧月ヶ瀬小体育館であるが、周辺の主要道路は国道414号の1本しかなく、災害時等で通行不能となった場合を考え、新しくできたふらっと月ヶ瀬正面玄関前の道路の先の延長と狩野川を渡り田沢区の県道に抜ける橋を架けてほしい ・田沢橋の老朽化や幅が狭いため、改良してほしい ・災害時対応の道路ネットワークの構築はどの様であるか ・修善寺温泉の火災で消化ホースから水漏れがあり、消化に支障をきたしたことをなどを教訓とした防災(備品等)対策についての見直しは ・防災・防犯等は、地域の情報に詳しい地元の消防団の活躍に期待 ・土肥地区の津波対策は
観光・産業	<ul style="list-style-type: none"> ○伊豆半島全体で、しっかりとしたコンセプトをもって、総合的に施策を進めてゆくべき。 <ul style="list-style-type: none"> ・たとえば、看板などの統一や総合的な情報発信など ・自然と自転車との合体による誘客メニュー作り ・道路整備：歩道・自転車・車道の明確化 ・車両と自転車の事故防止策 ・道路の痛みが多く、草が生えている ○月ヶ瀬インターの有効利用 <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の運営方法について専門家のアドバイザーを活用して地域の活性化を考えてほしい ・地元の企業や商店・農家を取り入れてほしい ○地域の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・企業の誘致(働くところがない) ・道の駅で雇用を増やしてほしい ・地元の企業(商店など)の継続の支援 ○オリンピック終了後について <ul style="list-style-type: none"> ・景気の後退が心配 ・継続できるような施設を考えてほしい ・サイクルロードや観光地の名所を回れる整備と情報発信

産業・観光	<p>○ジオ関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通のコンセプトを伊豆半島全体で共有し一致協力して進めてゆくべき。そのことが地域の活性化に繋がるし、雇用も生まれる <p>○地元企業が元気になるような施策をしてほしい</p> <p>○将来の子供たちが住めるように仕事や環境の整備をしてほしい</p>
教育・福祉	<p>○文教ガーデンシティ、中学校再編成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県や国の規制を基にした 3.9ha の面積、グラウンドの配置、校舎の配置、どれも決め方がおかしい。中止してやり直すべき ・こどもたちの声が聞こえなくなる、という事実をもっと考えてほしい。小規模校の良さもある。まだ話し合いが足りない ・「自分たちの学校があるからここに住んでいる」という若者がいる。 ・天城中が好きな若者のために中学を残してほしい ・学校を集約する理由があるから集約しようとしている。さびしさもあるが、新しい考え方も必要。現実には人数が少なすぎるために不自由している。大規模校のメリットがある。中学校の統合を実現してもらいたい。 ・自分たちの孫には、ある程度の生徒数がそろった適正な規模の学校教育を受けさせたい。 ・教科センター方式の優れている点について、市の説明が足りない。まだまだ新しい取り組みだが、理解が得られるはず。 ・教室がたくさん必要だから新築するのか。無駄である。 ・校舎などを、新築する場合と、補強（長寿命化）する場合、費用の差がどれくらいあるのかわからない。調べて教えてほしい。 ・放課後の子供たちにも配慮が必要。豊かな自然の中で、子どもたちが快適に気持ちよく過ごせるようにするには、どうすればよいか、具体的に考えることが大切。
その他	<p>○湯ヶ島小改修工事、天城支所移転</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今ある施設を使わずに貸して移転のために工事費用をかけるのは無駄。その分のお金を森林整備に使う方がよい。 <p>○アメニティの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少の中活性化といっても、立派な施設を作ればいいというものではない。住んでいる人が、気持ちがいいと感じられる施設を作ればいい。生活の質、快適さを基準に、どうゆう施設が気持ちいいか、具体的に考えることが必要。 ・交通網の整備も、だれもが安心して安全に使える、という尺度で、どうすればよいか現実的に検討すべき。